

市政専門図書館所蔵

東京の中央卸売市場関連資料ミニ展示会

本館所蔵資料から、東京の中央卸売市場に関する資料を展示します。

- ① 市区改正と日本橋魚市場の移転問題
- ② 関東大震災を契機とした日本橋から築地への移転
- ③ 築地から豊洲へ
- ④ 中央卸売市場の歴史（通史）

2017年1月23日(月) - 2月24日(金)

9:30 - 17:00 (土曜・日曜：休館)

会場：市政専門図書館 展示コーナー *無料*

展示資料

①<市区改正と日本橋魚市場の移転問題>

1-1

「日本橋北内神田両国浜町明細絵図」

【金鱗堂尾張屋清七】[1859.]

江戸幕末期における日本橋魚河岸の位置が記されている。

1-2

現在の地図に見る日本橋魚河岸の位置

(「中央区沿革図集【日本橋篇】」東京都中央区立京橋図書館編
1995.03. より抜粋)

1-3

明治40年代の日本橋魚河岸の様子

(「日本橋記念誌」安藤安編 日本橋記念誌発行所 1911.04. より抜粋)

① 日本橋魚河岸 (午前), ② 日本橋魚河岸 (午後), ③ 江戸橋より見た
日本橋魚河岸



1-4

「東京市区改正委員会議事録 第2巻 自第14号至第32号」

東京市区改正委員会編 [1888.-1889.]

東京市区改正委員会に先立ち設置された市区改正審査会では、日本橋など6カ所にあった魚市場の立地を交通や衛生の面から不適格とし、濱町、芝、深川の3カ所に集約移転することとした。日本橋魚市場は濱町への移転が決められたが、市場関係者より濱町は水運の便が悪く土地が狭隘で移転が困難との請願がなされたため、市区改正委員会は移転先を濱町から中洲町を含む箱崎町一帯へと変更した。

1-5

「東京市区改正全図 明治23年〔復刻〕」

東京都公文書館編 1976.03.

東京市区改正設計において、魚鳥獣肉市場及び青物市場の場所は以下のように定められた。

①箱崎魚鳥市場附獣肉市場, ②芝魚鳥市場附獣肉市場, ③深川魚鳥市場附獣肉市場, ④神田青物市場, ⑤京橋青物市場

1-6

「東京市中央卸売市場位置選定に関する意見」

東京市政調査会編 1924.

日本橋魚市場は1889（明治22）年に東京府令第37号により移転が決定したが、移転しないまま35年が経過した。本意見書は移転が実現しない理由として、移転先指定地の「日本橋区中洲町5万坪」が市場立地として問題があること、市場開設費や移転費を全額事業者負担としたこと等を挙げる。そして新たな移転先候補地として、「芝離宮沖埋立地」を提言している。

1-7

「板船権及平田船補償問題に就て」

東京市政調査会編 [1927.]

日本橋魚市場には江戸時代からの慣行として板船権（販売する魚類を並べるための平板を使用する権利）という権利があり、売買や譲渡、賃借の対象とされていた。平田船は船便で運ばれた魚類を陸揚げする際に使われた舢舨で、利用するには所有者への賃借料が必要だった。関東大震災後、東京市は築地に開設した食品市場に日本橋魚市場関係者を移転させたが、その結果平田船は不要となり板船権も消失した。このため、平田船の所有者や板船権の権利者が失った権利に対する金銭的補償を東京市に求める事態となり、大きな社会問題となった。

1-8

「中央卸売市場法」

小金義照著 小松印刷所 1932.02.

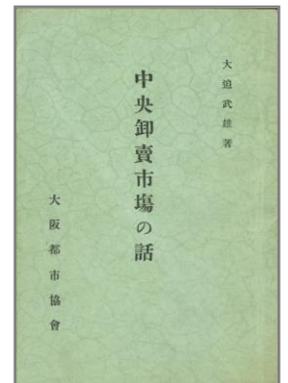
1918（大正7）年に勃発した米騒動への対応として、政府は日用必需品や食料品を販売する公設小売市場を全国の大都市に設置した。さらに、小売市場への物品供給の円滑化と物価の安定には中央卸売市場が必要との判断から、1923（大正12）年、その役割や業務規程を定めた「中央卸売市場法」を制定した。

1-9

「中央卸売市場の話」

大迫武雄著 大阪都市協会 1929.08.

従来の卸売市場と中央卸売市場の違い、中央卸売市場の立地や目的、設備や機能から市場での取引方法・違反者への罰則にいたるまで簡潔に解説している。



1-10

「農村協同組合と大都市中央卸売市場」

東京市政調査会編 1928.12.

農村における協同組合の成り立ちや現状を調査することで、大都市の中央卸売市場との関係性を明らかにする。同時に、中央卸売市場での売買の実態について調査を行い、卸売市場の抱える問題点の指摘や改善策の提言等を行う。

②<関東大震災を契機とした日本橋から築地への移転>

2-1

「日本橋魚市場ニ関スル調査」

東京市商工課編 1922.06.

日本橋魚市場の組織や魚荷の取扱状況等についての調査。関東大震災の約1年前に行われたもので、震災前の魚市場の写真や地図も収録されている。

2-2

「帝都復興事業誌 計画篇・監理篇・經理篇」

復興事務局編 1932.02.

東京市中央卸売市場築地本場および神田・江東分場は1924（大正13）年4月に東京都市計画に決定され、築地本場整備事業は帝都復興事業として執行されることとなった。

2-3

「東京市中央卸売市場築地本場・建築図集」

東京市編 1934.12.

東京市中央卸売市場築地本場は1928（昭和3）年3月に埋立工事が着手され、1934（昭和9）年8月に各種工事を完了、1935（昭和10）年2月に開場した。

2-4

「東京中央卸売市場開場まで」

東京青果小売商組合編 1935.03.

中央卸売市場開設に際し、それまで地位が低く見られてきた小売商が団結し、単複収容、分場、業務規定等様々な問題の解決に力を尽くした。ここでは1934（昭和9）年4月から、市場開場をまたいで1935（昭和10）年3月までの活動がまとめられている。



2-5

「東京復興計画街路・運河・公園・小公園・中央卸売市場・土地区画整理一覧図」

[1926.]

関東大震災後の各種復興計画を示した地図。東京市中央卸売市場築地本場、神田分場、江東分場の位置が記入されている。

2-6

東京朝日新聞（1933年12月14日、1934年2月24日、7月24日、8月30日、9月26日、12月19日、）

東京市中央卸売市場築地本場では、1933（昭和8）年12月13日に完成式典がとりおこなわれた。しかし様々な事情から、移転は容易には進まなかった。

2-7

「21世紀自由都市・中央区」

日本地域社会研究所編 1994.03.

東京都は、老朽化等の問題から、築地市場の移転整備や、現地での再整備を検討してきた。本書では1988（昭和63）年11月策定の築地市場再整備計画基本計画、1990（平成2）年6月策定の同基本設計に基づいた、新たな築地市場の姿が紹介されている。

③<築地から豊洲へ>

3-1

「東京都卸売市場整備基本方針（答申）」

東京都中央卸売市場審議会【編】 2001.04.

これまで築地市場を再整備するとしていたものを、豊洲地区を移転候補地として検討する旨を、2001（平成13）年4月に初めて答申した。

3-2

「東京都卸売市場整備計画 第7次（平成13年度～平成22年度）」

東京都【編】 2001.12.

東京都は、第7次東京都卸売市場整備計画（2001（平成13）年12月策定）において、正式に豊洲へ移転整備することを決定した。



3-3

「豊洲新市場基本構想」

東京都中央卸売市場管理部新市場建設室【編】 2003.05.

豊洲新市場のコンセプト、基本方向などを定めた基本構想。

写真提供：東京都中央卸売市場

3-4

「豊洲新市場基本計画」

東京都【編】 2004.07.

豊洲新市場の果たすべき機能、施設計画、流通システムなどを定めた基本計画。

3-5

「豊洲新市場実施計画のまとめ」

東京都【編】 2005.09.

基本計画を実施するための施設配置・規模、衛生・環境対策、整備・運営手法などをまとめた実施計画。



3-6

「築地市場の移転整備；築地から、豊洲へ。」

東京都中央卸売市場【編】 2009.06.

東京都中央卸売市場を築地から豊洲へ移転することの理解を広めるためのパンフレット。

3-7

「豊洲市場における土壌汚染対策等に関する専門家会議 第4回（2017年1月14日開催）」

豊洲市場における土壌汚染対策等に関する専門家会議【編】 2017.01.

この専門家会議に報告された第9回地下水モニタリング調査（2016（平成28）年11月～12月実施）の結果として、ベンゼンなどの有害物質が国の環境基準値を大幅に上回ったことが判明した。

④<中央卸売市場の歴史（通史）>

4-1

「東京都中央卸売市場史 上巻」

東京都編 1958.03.

東京の市場と言えば、一般に中央卸売市場の前身である魚問屋・青物問屋の集団地区を魚河岸とか青物市場と呼んだ。これらの呼び名は俗称であって、公式の通達等でこれらを市場と呼ぶようになったのは、1877（明治10）年の東京府令第66号魚鳥並青物市場及び問屋仲買例規がはじめとされる。本書は、時間の経過とともに、散逸しがちな東京の市場に関する多くの文献や資料を取りまとめ編さんされたものである。

4-2

「神田市場史 上巻」

神田市場協会神田市場史刊行会編 1968.12.

本書は、江戸時代日本最大であっただけでなく、その最盛期には世界最大の都市となった江戸の最も中心的な役割を担った青果物市場「神田市場」の成立と発展についてまとめたものである。神田市場についての史料は、日本橋魚市場と比較すると天災や戦災等でほとんど焼失している。そのような乏しい史料状況の中から編さんされたものである。

4-3

「卸売市場制度五十年史 第1巻 本編」

卸売市場制度五十年史編さん委員会編 食品需給研究センター 1979.03.

近代的な卸売市場制度は、1923（大正12）年の「中央卸売市場法」の制定によってその礎が築かれた。本書は、同法制定以後の50年間をとりあげているが、前史としてそれ以前の時代にも遡り制度史を詳細な年表と共に法的・社会経済的側面にわたって詳述している。また、主要大都市の市場開設や発展の経緯なども明らかにする。

4-4

「築地市場 クロニクル 1603-2016」

福地享子著 朝日新聞出版 2016.06.

2016（平成28）年7月、築地市場は豊洲に新市場として開場することが発表された。

本書は、著者自身が「築地市場の姿」を写真で残すため、収集した写真の中から約400枚を使いオムニバス形式で時代ごとにまとめたものである。

